



こんにちは!

気象庁です!

12月号

平成27年

(2015年)

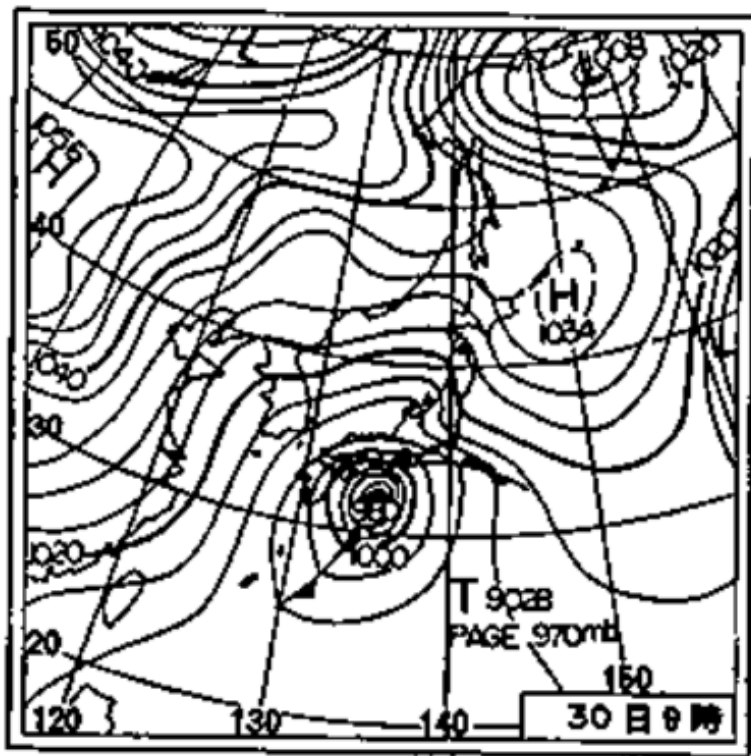


12月の台風

今年は、9月に台風第18号・第17号の影響で、関東地方や東北地方では豪雨による大きな被害が発生しました。また、今年は例年と比べ北西太平洋の東側の陸地から遠い海域で台風が多く発生したため、暖かい海の上を西の方に長期間移動する存在期間の長い台風が多かったのが特徴です。

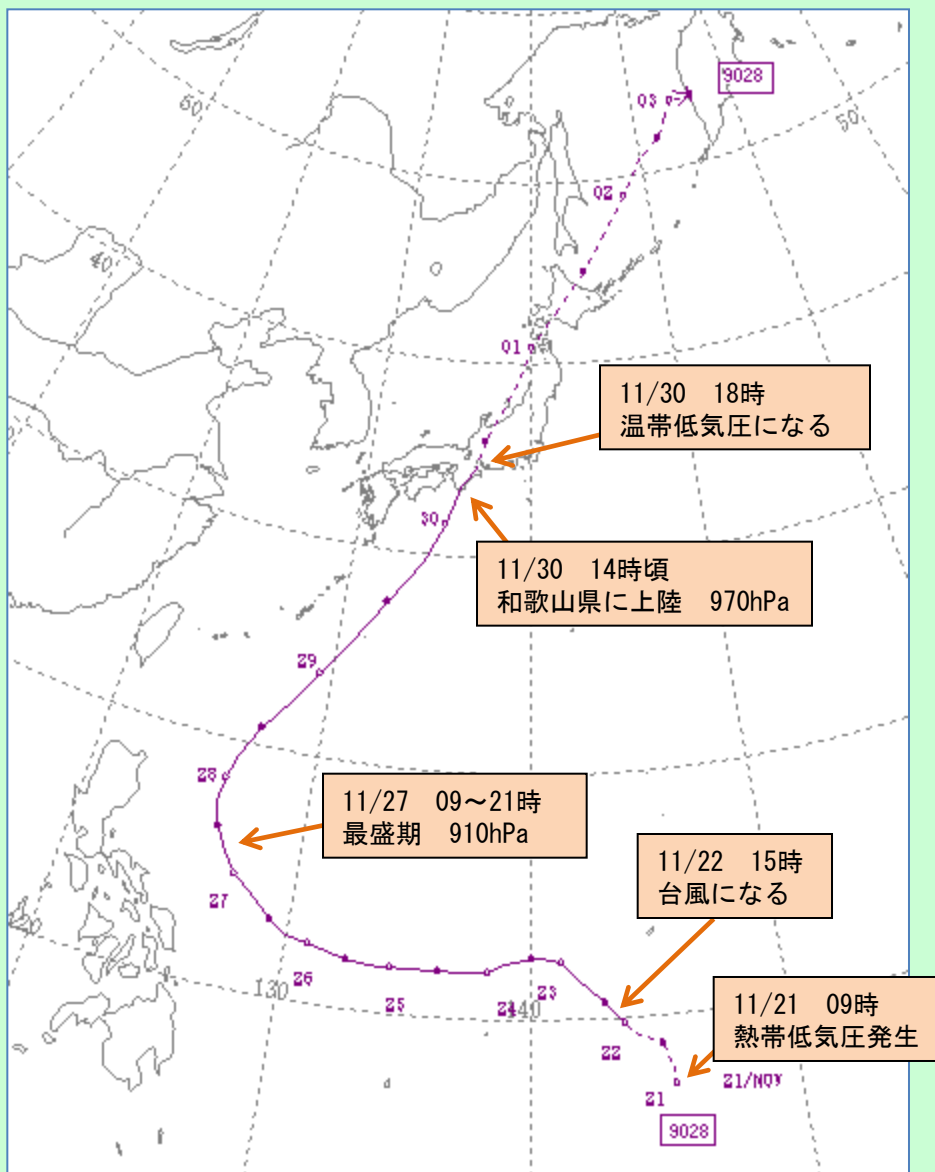
さて12月といえば、冬型の気圧配置による寒波や雪、太平洋側の乾燥した晴天などが特徴的で、日本付近に台風がやってくることはほとんどありませんが、北西太平洋全体では12月に平均して1.2個の台風が発生しています。最近では2014年に2個、2012年と2011年にそれぞれ1個ずつ発生しました。台風の統計開始年である1951年以降で、12月の台風発生数がもっとも多かったのは1952年の4個です。しかし、日本への接近となると、12月の平均の台風接近数は0.1個と10年に1個の割合で、過去6回の12月の接近はすべて沖縄地方または小笠原諸島への接近でした。

統計開始以降12月に日本に上陸した台風はありませんが、1990年の台風第28号は11月30日14時頃に和歌山県に上陸し、あと10時間ほど遅ければ12月の上陸となる所でした。これが統計上もっとも遅い台風上陸です。



台風上陸約5時間前の1990年11月30日09時(日本時間)の天気図

台風第28号は和歌山県に上陸して温帯低気圧に変わりながら本州を横断。太平洋側の地方を中心に強風を伴った大雨となり、三重県尾鷲では、348.5mmの日降水量を記録しました。



1990年台風第28号の経路図

経路上の○印は傍らに記した日の午前9時、●印は午後9時の位置で、→|は消滅を示します。

経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示します。